

広報ただみ診療所

朝日診療所 所長 わかやま 若山 たかし 隆



新年度になりましたね。朝日診療所は4月から新しい常勤医師を迎え、常勤医が2名から3名に増えました。新しい先生の名前は山並先生といいます。詳しくは次回の広報只見診療所で本人から直接自己紹介してもらおうと思いますので、みなさま楽しみにお待ちください。

さて、新型コロナウイルスワクチンの追加接種も2月と3月の間でみなさまの協力もあり多くの方に実施できました。小児や10代の若い方のワクチン接種も広まってくれば、集団免疫もより強固なものとなります。前回の広報只見診療所でもお伝えしましたが、ワクチンによる重症化予防効果は少なくとも4か月以上保たれるようですし、治療薬もでてきました。コロナに感染しても以前より重症化しなくて済む状況になってきていると思います。雪が解け、春の陽気に季節が変化していくように、ゼロ・コロナからウィズ・コロナに少しずつ変化しても良いのではないかと思います。

それにしても、この2年間を振り返ってみればとても忙しかったなあと思います。深夜の急患対応はお休みさせていただいておりましたが、感染対策をしての患者対応、24時間365日の入院患者・高齢者施設の対応、訪問診療、保育所や学校医としての活動、新型コロナウイルスワクチン接種の実施など…。大変ではありましたが、診療所同僚たちの助けはもちろんですが、町民のみなさまの応援やご配慮があればこそ、頑張っただけでした。この場をお借りして、改めて感謝させていただきます。新年度もどうかよろしく願いいたします。

地域おこし協力隊として Vol.88

冬の只見に希望と早い春を届けてくれた
只見高校野球部

只見町観光振興協力隊 よこやま 横山 よしみ 儀巳



この原稿を書き上げているのは選抜高校野球大会開幕前、そしてこの記事が掲載されるのが大会閉幕後となりますが、3月9日、春を感じさせる晴れ渡った日の朝、只見高校野球部が晴れやかな表情で元気に甲子園に向けて出発していきました。保護者、関係者や町民が多数集まり、生徒たちも町民の温かい応援を肌で感じてくれたのではないかと思います。甲子園では「全力疾走」で只見らしい風を吹かせて、晴れやかな顔で帰ってきてくれるものと思っています。

今回の甲子園出場は、心はコロナ禍、体は毎日の雪かたしで心身共に疲れていたこの冬の町民に、叶わない夢はないんだという勇気と希望そして元気を与えてくれました。町民の誰しものが応援してくれましたが、今回は町外においても会津代表として域内の様々な会社や団体の応援、そして全国から多数の寄付も集まり、只見町民であることを誇りに思える出来事でした。

この秋の只見線全線再開通に先んじて、「只見線の町」が「只見高校の町」として全国に知れ渡り、只見線以上のインパクトで「只見」が間違いなく全国区となり認知度が上がるものと思っています。

高校野球を直接「観光」に結び付ける訳にはいきませんが、およそ半年後に迫った只見線全線再開通に向けた盛り上がりの後押ししてくれることは間違いのないと思います。

さて、只見線全線再開通に合わせて整備することとしております駅前賑わい創出事業については、雪解け以降に工事が本格化していきます。施設造りにあたっては、只見駅前の顔として位置付けられることを念頭に設計し、町民・観光客問わず高齢者から乳幼児連れの家族、高校生まで世代を問わず気軽に利用でき、地域に愛されるお店を目指し、“地域おこし”の一端を担っていければと思っています。